

# ハーバード便り

( 第 14 号 ・ 2005 年 1 月 24 日 )

## 1 . ブリザード

学生の皆さんは期末試験の時期ですね。寒い中で体調を整えながらの準備は大変ですが、1 年間の総まとめですから、存分に実力を発揮して下さい。

日本でも報道されているようですが、ボストンを含むアメリカ北東部は 1 月 22 日から 23 日にかけて激しいブリザードに襲われました。60 センチ近く  
の積雪は、歴代 5 位以内に入るほどの量。さらにハリケーン並みの強風も加わり、非常事態宣言 (a state of emergency) が発令される事態となりました。もっとも、ハーバード近辺は混乱や停電もなく、一安心。家の前の道路でも、雪かき業者が稼ぎ時とばかりに一晩中モーター音を響かせていました。



ブリザードの中、除雪機で歩道整備。強風で粉雪が待っているので、視界が白っぽくぼやけてしまっています・・・。

駐車施設の不足しているハーバード付近では、路上駐車許可をもらった車が道路にたくさん置いてあります。今回一番大変な思いをしているのは、これら車の持ち主でしょう。右の写真の通り、車は完全に雪の中に埋没しています。これでは運転する以前に、車を掘り出すので一苦労ですね。



## 2 . 自立と孤立の間

1 月の中旬、私は Rockport という小さな漁師町に旅行してきました。友人から、ボストンとは違う田舎町を見てみないかと誘われたのです。Rockport



はロブスター漁を主産業とする北東部の小村。左が泊まらせていただいたお宅ですが、100 年ほど前に建てられたもののとのこと。厳冬期には停電も多く、暖房が効かないと生命に関わるため、今でも薪ストーブを使っています。

この旅で一番驚いたのが、ドライブ中に車の窓から見え

た “GET US OUT OF THE UNITED NATIONS !” という大きなポスターでした。つまり「(テロに苦しむアメリカに配慮してくれない) 国際連合から脱退を！」というわけです。アメリカでは植民時代の自立の気風がいまだに強く受け継がれている地域も多く、それが場合によっては国際的な孤立主義とつながり、ブッシュ政権を後押しするということもあります。

昨年末に旅行したニュー・ハンプシャー州での経験は、これとは対照的でした。ニュー・ハンプシャー



は大統領選でケリー氏に票を投じましたが、お訪ねしたお宅の食器棚には上のようなステッカーが。「私はニュー・ハンプシャーの者です。(ケリーに投票したからといって)責めないで！」という意味合いで置いてあるとのこと。もっとも、これは反ブッシュを貫くという自立した意思の反語表現でもあるのでしょうか。反ブッシュ派によるこの自虐的なユーモアもまた別の意味で、自立と孤立の間を揺れ動くアメリカの現状を象徴しているのかもしれませんが。

(ハーバード大学客員研究員 早川誠 : mhykw@ris.ac.jp)